

7 まちの見所を紹介

参加者により時間を過ごしていただく案内人として、先導したり様々な解説や体験を提案します。解説を通して、参加者と自然の仲を取り持つインタープリターの役割を担います。

チェックリスト

- 自分がフィールド、人間同士のマナーを守っていますか？
- 列が長くなったときの解説の対応を考えていますか？
- 参加者に声が届く距離にいますか？
- 参加者の関心や疲れなどを意識していますか？
- 参加者の興味を引く内容ですか？

ガイド中の声がけ事例

日頃のガイドにも応用できる、鴻巣山での声がけ事例です。

文化

ここは里山として人と自然が共生してきた場所です。今も鴻巣山では「このす里山くらぶ」が里山を守り育てる活動が行っています。

距離

平尾霊園から展望台を通り、反対側までは2km とかからずに歩くことができます。

風景

あちらに見えるのが志賀島です。…能古島です。(場所に応じて、山や池などの名前を)

イベントの中でも特に伝えたいものを意識して、あらかじめ声がけのタイミングや内容を考えておくことがおすすめです。



<ワンポイントアドバイス>

* 印象的な体験を提供する

ただ話すだけではなく、具体的に触ったり聞いたり五感を刺激する体験・解説を提供できるとより印象に残ります。

例：樹皮や葉っぱを触ってみる、匂いをかいでみる、しゃがんだり近づいたり視線を変えてみる 等

* 安心できる雰囲気づくり

参加者が安心して解説に集中できる雰囲気をつくるのが大切。自信を持って先導し、安心して体験をしてもらいましょう。

* マップの配布

ウォークイベントの際、マップにトイレやまちの見所を書いておきましょう。後々参加者がマップを見返したときに、ここに行った、あそこにも行ったと、見所を思い出してくれます。